

Title	彙報
Author(s)	
Citation	経済論叢 (1943), 57(6): 601-605
Issue Date	1943-12
URL	http://hdl.handle.net/2433/132045
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第卷七十五第

口繪 經濟學部學徒出陣壯行式寫真

ヒックス利子理論について……………高田保馬

増税問題……………汐見三郎

強制及び勸誘貯蓄の體系……………小島昌太郎

近代資本主義經濟の二つの側面……………青山秀夫

アンシアン・レジームの經濟段階……………河野健二

選擇理論の立場から見たる
デュブイの相對效用について……………園正造

戰時財政と經濟統制……………有井治

彙報

本誌第五十七卷總目錄

行發月二十年八十和昭

經濟學部學徒出陣壯行式

學徒出陣の事決定して以來六週間、十一月十九日、翌日の全學壯行式を控へて經濟學部の壯行式及び同好會主催の壯行會行はる。月餘に亙る連日の修練に身心共に出陣の準備成れる出陣學生、やがてはそのあとを追ふべき殘留學生一同、午前九時學部玄關前に集合、各口學部長を始め多數教官引率の下に、教官署名の國旗を先登にして、正門を出で京都皇宮に向つて進發する。この日天氣晴朗、まことに出陣學徒の行を壯にするにふさはしい。堂々の行軍は消道の人をして眼を眩らしめつゝ、九時半建禮門前に到着、敬虔なる奉拜の後、部長の發聲にて聖蔭の萬歳を奉唱する。西南太平洋の空にまで轟くかと思はるゝばかり。それより加茂御祖神社(下鴨神社)に至り、武運長久祈願祭行はる。神主祝詞を奏し、部長及び出陣學徒代表玉串を奉奠し、一同饌酒並に御符を戴いて勇躍奮闘を誓ふ。終つて驢足を以て學部玄關前に歸着、午後行はるべき壯行式及び壯行會のために暫時待機する。

午後一時、法經第四教室に於て先づ學部主催の壯行式舉行せらる。演壇後方の大國旗、演壇上の松、滿堂の教官・學生並に音樂部學生團、出陣學徒ならざるものにも腦裡に燃付く情景である。開會の辭、國民儀禮、國歌奉唱、宣戰の大詔奉讀の後、別

項の如き學部長壯行の辭、在學々生總代送辭、出陣學生總代答辭あり、慈愛、友愛の情、生還を期せざるの決意、融通和合して滿堂の感激は高調に達する。續いて出陣學徒に對し學部からの心を籠めた贈物「學徒出陣手帳」並に「記念國旗」(凸版刷)が授與せられ、柴田教授の先導にて「勝ちぬく誓」を齎し、音樂團の伴奏にて「海ゆかば」を齊唱、最後に聖蔭の萬歳を高らかに奉唱、極めて嚴肅裡に式を閉じた。

壯行之辭

茲に經濟學部出陣學徒の壯行式を舉行するに當り、一言所懐を述べて、諸君の行を壯にせんとするものである。

曩に米國及英國に對する宣戰の大詔煥發せられてより茲に二ヶ年、大御稜威の下、我が忠誠勇武なる陸海將兵の善謀敢闘により、未曾有の戰果は赫々として擧り、帝國の威武早くも敵國を壓倒し、大東亞建設の巨歩は着々として進められつゝある。此の間にあつて諸君は今日まで、依然として學窓に止まり、學徒としての教養を續けたのであるが、併し内には鬱勃たる報國の決意躍動して、抑へ難きものありたるは明らかである。

今や皇國は三千年來の國運を決する重大なる時局に直面し、緊迫せる世界の情勢は一日を忽せにすべからず、一儻同胞悉く戰闘配置につき、各々其の全力を盡して、以て國難を克服すべき時機に到來した。此の秋に當り、諸君は遂に待ちに待ちたる御召を蒙り、勇躍征途に上る光榮の日を迎ふることゝなつた。諸君の歡喜や想ふべきである、諸君は心中すでに深く決する所

あり、胸を張り腕を撫して率先國難に赴かんとする、其の天地正大の氣魄は、正に堂を壓するものあるを見て、吾等もまた深き感激に打たるゝものである。

諸君は皇國に生を享けてより、茲に二十有餘年、この間皇國恩の辱きを受けて、最も恵まれたる環境の下に、國家最高の教養を高めつゝ今日に至つた。今こそ其の高き教養を最高度に發揮して、限りなき皇國恩に報い奉るべき、絶好の機會が到来したのである。憶へば悠久三千年、此の皇國を譲り續けた吾等祖先の遺烈を顯揚し、一死以て皇運を扶翼し來るべき日が來たのである。

思ふに、今次征戰の目的は炳乎として宣戰の大詔に垂示し給ふ所である。東洋制覇の非望を逞うせんとする米英兩國を擊滅して、帝國の存立を百年の泰きに置き、東亞の安定を確保し、世界の平和に貢獻して、萬邦共榮の樂を俱にするためには、斷然として一切の障礙を破砕し、米英兩國を東亞より驅逐して、以て大東亞共榮の新天地を建設せねばならぬ。諸君は一方に於て、米英擊滅の奇烈なる戰鬪に従事すると共に、他方に於て、東亞十億の民族を結集して、大東亞共榮の新秩序を建設すべき、大任を負ふものである。特に諸君が最高總督の識見と、積年練磨の人格を以て、大東亞の諸民族を指導し、八紘爲宇の大理想を實現するには、他に何人も企及し得ざる素養と、準備を以て出で征くものである。

今や敵米英の學徒もまた、諸君と同じく戰場に馳驅して、戰

に従事しつゝある。諸君は彼等と戰場に相見えて、互に雌雄を決せんとするものであるが、諸君は其の氣魄と戦力に於て、必ずや彼等を壓倒し、赫々たる勝利を獲得すべきことを、吾々は信じて疑はざるものである。

茲に出陣する經濟學部の學徒諸君は、其の總數約〇百に垂んとするが、諸君の總ては、樞要なる軍隊の幹部として養成せらるゝものなるが故に、假りに各人それ〇百人の長とならば、能く經濟學部のみを以て〇萬の大軍を率ゆることゝなる。諸君が此の大軍を叱咤して、勇戰奮闘せらるゝの壯觀を想ふとき、吾等もまた血の湧き肉の躍るを禁じ得ない。あゝ國危くして何の大學かある。吾等も亦其の時機到らば、勇躍征途に就いて、諸君の蹤に續くの光榮に浴すべく、今日すでに深く決する所あるが、姑らく學園に踏み止まり、諸君の殘されたる學園を護り、銃後奉公の誠を致しつゝ、諸君が征戰の目的を完遂して、赫々たる勳功を荷ひ、武運目田たく學園に歸り來る日を待つものである。

希くは諸君、懸軍萬里、榴風沐雨、如何なる困難に遭遇するも、最善の注意を以て其の健康を保持し、不拔の精神と必勝の信念を以て、護國の重責を果し、後世萬古に亙り、永く日本の光輝ある歴史と傳統を残されんことを、深く諸君に期待し且つ確信するものである。

上に神靈の加護あり、御稜威の下、諸君が必ずや此の重責を完うせられんことを切に祈念して諸君に對する壯行の辭とする。

昭和十八年十一月十九日

京都帝國大學

經濟學部長 谷 口 吉 彦

壯行の辭

維時昭和十八年十一月十九日、この光輝ある眞理探求の殿堂に於て、大學令發布以來未曾有の出陣學徒壯行の式典を舉行せらるゝに當り、經濟學部在學生を代表し、聊か燕辭を陳べ、壯行の辭に代へんとす。

惟ふに兄等學に志してより既に十幾星霜、今や最高學府の段階に入り、帝國大學々生としての榮譽と期待を擔ひ、日夜研鑽を續け、以て皇國の進運に寄與し、國家隆昌の氣運を永世に維持せむとせり。而も支那事變以來今次大戰に至る迄、兄等身は學舍に在るも、克く陣中の意を體し、日に月に勉勵努力以て戰時下學徒の本分を遵守せり。然るに苛烈なる戦局は益々深刻なる局面に達し、今學半にして榮譽ある出陣の大命を拜す。何ぞ亦學徒の光榮之に優るもの有らん哉、何ぞ其れ聖且壯なる雄姿ならん哉、有史以來斯くの如き壯舉有りし哉、時宗、秀吉、或は隆盛の成さむとして成らざりし大理想が今や兄等學徒達に依て決行されむとす、何たる快事ぞ、征け、懣敵擊滅の爲め、大東亞建設の爲め、大いなる歴史創造の爲め、新しき光明の世界史開拓の爲めに。その新しき光明の幕は兄等自らの手に依てのみ開かれるのである。その開けそむる幕の軌りは兄等自らの耳朶を打ち、やがて東亞民族十億の胸の陣鼓に衝し、大東亞建

設の大行進曲は奏せられ、而して世界新秩序のプロローグならむ、古を追ふ舊秩序維持者達には、それは必ずや葬送曲であり、彼等世界のエビロークならむ、兄等の榮譽たる何ぞ大なる哉、請ふ、兄等一度戎衣を纏ひ、勇躍征途に就かば刻苦精勵軍務に奉公せられ學徒兵としての重責と期待とを果されん事を。

水柱閉ざす北海の孤島に北辰を仰ぎ、朔風吼ゆる北滿に軍馬の嘶くを聞き、吾むす長城に孤月を仰ぐ。或は濁流長蛇の長江に戰塵を洗ひ、夜光蟲亂れ飛ぶベンガルに印度獨立を支援し、南溟の空遠く南十字星を追ふ。嗚呼何たる勇壯なるぞ、之皆兄等の姿なり、而してこの兄等に物の蔭の如く附添ふは追懐の情ならん。不曾曾て蒙古オールドスに従軍する事數年、その貧しき體驗に徴するも明白なり。蓋し兄等の追憶は、此の母校に聳え立ち、日夜兄等の勝利を刻む時計臺下の學園ならん。

而して想起されよ、其處には兄等に續かむとして、意氣軒昂たる同學の生等學弟の待機の姿あるを。而して武運目出度く歸還の大命に浴することあらば、陣中間の逞しき體力氣力以て再び學の蘊奥を極められ、邦家の爲め盡瘁あらむことを祈念するものなり。

終りにのぞみ、兄等の御健康と武運の長久を一同と共に祈り、此の辭を結ぶ。

昭和十八年十一月十九日

經濟學部在學生代表一回生

片 岡 六 郎

本日茲に近く入營の光榮を擔ひ戦線に赴く生等の爲め經濟學部壯行式を舉行せられ、學部長先生よりは御懇切なる訓示を辱くし、亦在學生代表より熱誠溢るゝばかりの壯行の辭を惠與せられたるは海に無上の光榮にして、生等一同感激措く能はざる處なり。

今や皇國は三千年來の國運を決する極めて重大なる時局に直面し、内外の情勢は一日半日をも忽せにすること能はず、一儻同胞悉く戰闘配置に就きその全力を盡し、以て國難を克服突破せんとす。この秋に當り學徒出陣の勅令公布せらる。豫て報國挺身の決意躍動して抑へ難きものありし所、生等茲に聖旨を奉戴し勇躍第一線に進むを得たり。皇國男子として無上の榮譽にして本懐之に過ぐるものなし。生等本より生還を期せず。謹んで宣戰の大詔を奉戴し盡忠報國以て我等學徒に與へられたる光榮ある護國の重責を完うせん。

在學學徒諸兄又遠からずして生等に續き出陣の上は、我等の屍を越え頑敵を撃滅し、以て大東亞戰爭を完遂し、上宸襟を安んじ奉り、光輝ある日本の傳統を維持せざるべからず。

生等も亦必勝の信念に透徹し、不撓不屈の精神を以て戰場に邁進し、誓つて 理恩の萬一に酬ひ奉り、必ず各位の御期待に副はんことを期す。決意の一端を開陳し答辭となす。

昭和十八年十一月十九日

京都市帝國大學經濟學部出陣學徒代表

三回生 岡田公意

同好會主催壯行會

學部主催壯行式に引續いて同好會主催壯行會に移る。時に午後一時四十分。この間出陣學生にとつては連日の修練において馴染深くなつた乾パンの配布あり、乾杯に代る乾パンの饗應によつて興趣新なるものが加つた。高田教授に請ふに、出陣學徒への壯行の辭を以てすれば、先生快諾され壇上に立たれた。拍手萬堂を搖がす裡に、先生の熱誠溢るゝ一言一句は強い印象として滲透した。その要旨は次の如くである。

私はいま壯行の言葉を通べるに當つて感激に溢れてゐる。京都市大に關係をもつて以降、暫時外へ出たことはあるが、大體三十六年を経過したといひ得る。顧みて大學に入つた當初から、今日の如き席において、今日の如き挨拶を通べる機會を持たうとは夢にも思はなかつたところである。個人的な感激もさることながら、祖國の進展について想を致すことが極めて多い。世界における日本の躍進なくして今日のかゝる機會は決して來得なかつたことである。一個人として、一教授としての感想乃至壯行の辭を通べんとするに當つても、次のことを念頭より去りがたい。

米英は世界の富、世界の支配を獨占しつゞけてなほ足れりせず、此不正の打破の大業に反抗せんとしてゐる。ここに決然、東亞を正しく建設すべく立上つた日本の現實を正視しなければならぬ。日本の中に燃ゆるものは道義の憤りであ

り、其背後にあるものは正義の光である。諸君は年齢のゆゑに勇躍征途につく。我々は年齢のゆゑに國內にとどまつて銃後の一員となる。出陣される諸君に對しては滿腔の感激と感謝とを禁じ得ない。

いふまでもなく日本の地位は上昇した。その飛躍的に増大したる實力によつて世界の歴史を正しき軌道に乗せるや否やの機會は既に到來してゐる。世界の歴史が正義に向ふか、或は不正義に留まるか。これについての鍵を握るものは實に諸君の決意と奮闘である。陸海空軍の中堅となるべき諸君。諸君の使命はまことに重大である。而も進んで言葉を許されるならば、諸君の勞苦の絶大なることを思ふと共に其他面に於ける其幸福を思はざるを得ぬ。悠久二千六百年の日本歴史の經過の間にあつては、幾度かわれら民族の祖先、又は近き先輩が立つて國難を救つては來た。併し乍らその決死的大業と雖も一國の治安、一國の安危を左右するといふことにとどまつたのである。ところが諸君の擔當すべき使命と事業とは迤に之をこえてゐる。世界の歴史を新しく樹直し、不正なるものの支配を排除して人類に正義の大道を布かむとする。君國の爲に殉ずること、既に男子の本懐である。況や全力を捧げて此大業に参加する。これ全くわれらの先輩の全く夢想だもなし得なかつた幸福である。諸君は此意識と自覺、自負と責任とを惟ふ時、一死國難に向はんとする勇躍の情熱火の如きものがあるであらう。われわれとしては此日本を、東亞を、

世界を凝視して、諸君の努力と勞苦とに對し如何程感謝しても、なほ足りないのを感じる。茲に多年修得の知識と高き道德的自覺と鍛鍊したる體力とを以て君國の爲に進發せんとする諸君に對し、祝意と感謝との微衷を捧げる次第である。

今や戦争は苛烈を極めてゐる。此段階は軍の中堅として新しき有力なる要素の進出参加を俟つてゐる。それによつてのみ此重大なる事態を轉換し得ると確信せられ期待せられてゐる。知識と道義的確信と鍛鍊せる心身とは此驚天動地の大業の完成に導くであらう。われわれは學窓に留まつて日々諸君の雄姿を想望し不斷の奮闘に感謝したいと思ふ。

次いで學生委員を代表して梅田君立ちあて師恩に答へん、國恩に酬いんと感極つたる挨拶を行つた。壯行會は果つるを知らざる界圍氣に充滿したのであるが、残されたる行事もあつたこととてこの邊りに閉會するに當り、小島教授發聲に従ひ出陣學徒の武運長久を祈つて萬歳を唱和した。出で立つものにも、残るものにも、未だ味つたことのない感激の一刻であつたことは、列席一同の胸裏に強く刻み込まれたところである。